会　議　概　要

会議名称	人権尊重の明るい伊那市づくり審議会
日　　時	平成３１年３月１９日（火）　午前１０時～午前１１時１５分
場　　所	５０１会議室

会議事項・概要

１　開　　会

２　あいさつ

会長

・矢継ぎ早に色々な人権問題が出てくるが、特に児童虐待は、救うチャンスがあったのに、うまくキャッチできず、幼い命を救えなかった。同じことの繰り返しがないことを願う。

・今年度の、それぞれの事業の報告を受けて、来年につなげたい。

３　協議事項

（１）平成３０年度人権関係事業実績報告について　（幹事説明　概要）

①企画政策課

・県部落解放同盟との意見交換会を実施した。

・女性活躍推進事業で意識調査と「女子会」を開催した。

・日本語教室や相談を委託している伊那国際交流協会が解散するが、日本語教室が継続できるよう協力する。

②市民課

・平成３１年１月１日の外国人住民数は１，７５２人で年度当初より１２３人増加している。特にベトナム人の増加が著しい。

③社会福祉課

・「社会を明るくする地域づくり大会」は豪雨のためやむを得ず中止した。

・来年度は福祉避難所の開設や運営に関する、マニュアルを作成する予定である。

④子育て支援課

・虐待通告は１月３１日現在５８件で、年度末までにはさらに増加すると思われる。

・小学校や保育園から通告を受けるケースが多いが、表に出てこないケースの把握について、見守りなど強化したい。

⑤健康推進課

・自殺対策としてゲートキーパーの研修会に２８０人が参加した。

・乳幼児健診体験学習には１校１３人が参加した。

・虐待予防のため支援が必要な妊婦について、支援計画を作成し切れ目のない支援を行った。

⑥高齢者福祉課

・市民に身近な地元の専門医を講師に、認知症を考える市民のつどいを開催し、２３０人が参加した。

・市職員７２名が「認知症サポーター養成講座」を受講した。

⑦商工振興課

・LGBT を理解する研修を共催し、企業からの参加があった。
・１３６社を企業訪問し、啓発を行った。
⑧学校教育課
・学校人権同和教育研究推進委員会を５回開催する中で、同和教育や、ＬＧＢＴについて学んだ。
⑨生涯学習課
・「部落差別の解消の推進に関する法律」施行から２年経過する中、歴史的、地域的な学習をもとに啓発を行った。
・市の新任職員に対し、研修会「同和問題と差別の歴史・願い」を開催した。

≪質　疑　≫

委　員：市民課から報告があったように、入管法が変わって、ベトナム人の数が増加している。今後、家族と定住する人も増えてくると思う。子どもたちが学校に入ることもあるだろう。今のうちから、様々な方面から研究し、施策を考えておいた方が良いと思う。

市民課：ベトナム人への窓口での対応は、現在翻訳アプリのみであり、今後の人数増加に応じて体制は検討したい。

企画部長：ベトナム人の人口は伸び方が著しい。全庁が関わる問題である。
文化や風土が違う人が地域の人とうまく共生できるような施策を、連携をとって考えていきたい。

委　員：外国人に限った問題ではない。文化が違う人が新しく入ったとき、どんな対応をするか、５年先１０年先を見て総合的に考えてほしい。

会　長：児童虐待について、親がどうしてあんなことができるのかと思う。１人を育てるのも四苦八苦というから、双子、三つ子はやっていられないとなる。社会で支える体制が必要と思う。

委　員：地区の役員をやっていて感じたが、自分の思い通りにならないと、相手を誹謗中傷するひどい言葉による人権侵害があると感じた。児童への虐待だけでなく、対大人についても対応が必要だと思う。

委　員：高齢者福祉課から救急医療キットの話があったが、障害者の中で、もらっている人と、もらっていない人がいる。先日家族が救急搬送された際、病歴などわからず困ったので、キットを広めてほしい。

高齢者福祉課：高齢者には民生委員を通じて配布している。高齢者に限らず、要援護者で必要な方には渡している。

会　長：高齢者の認知症との関わりで、運転免許返納について、警察から話を聴く機会があったが、できるだけ長く運転してほしいという方針とのことだった。家族は事故など心配するが、高齢者は交通手段を失うことは不便である。

（２）性的少数者の人権について　（事務局　資料２(LGBT 研修会資料より抜粋)、資料３により説明）

≪質　疑　≫

委　員：学校でも、教育委員会と連携して、性的少数者の人権課題についての教育を進めていく。学校として、そうした子どもたちが相談できる場所が必要である。保健指導の中で、「遠慮なく相談してね」と投げかけたり、保健室にポスターを貼る、本を置くなど、悩みを聴

く体制を整えることからやっていきたい。

また、授業でも扱っていきたいが、まずは教職員の理解を深め、どんな授業をすればよいかという研修をしたい。

先行している県内の学校を参考にしながら、手探りで進める状況である。

会　長：新しい課題で、知識より先に情報が入ってきてしまい、教職員も理解できていない状況だと思う。保健室が大事な相談場所になる。こうしたことで苦しむ子どもを救ってほしい。

委　員：今の話を聴いて、人権擁護委員として迂闊だったと感じている。性的少数者啓発用のパンフレットがあると思うので、学校で使えるか確認してみる。

やはり、当事者から話を聴くことが胸に響いて、研修には良いと思う。

会　長： 性別記入欄の、「男」「女」に「どちらでもない」を加えることの賛否についての話題があり、ドキッとした。

今まで当たり前だと思っていたことを考え直すきっかけとなる。

企画部長：新しい社会課題や、喫緊の課題の児童虐待などあるが、今後の審議会では、テーマ性を持って、一つのテーマについて掘り下げていければと思う。

4　その他

なし

5　閉　　会